

(経委) 第27号

観光物産協会（仮称）設立に向けた
事業内容検討のための
ワークショップ実施業務

成果報告書

えひめの板書屋 岩下紗矢香

業務実施概要書

【業務名】（経委）第27号 観光物産協会（仮称）設立に向けた事業内容検討のためのワークショップ実施業務

【実施期間】（令和3年8月3日～令和4年3月31日）

【業務概要】

〈第1回ワークショップ〉

■日付：令和3年10月22日(金)18:00～20:00
■場所：IYO 夢みらい館会議室 201
■テーマ：伊予市観光物産協会って何？～あなたが思う伊予市の魅力や美味しいものを教えて下さい～
■内容：現状を知る。伊予市の魅力の引き出す、俯瞰して見る
①伊予市の現状、観光物産協会（仮称）、第2次伊予市総合計画の概要説明
②全4回のワークショップの内容、ルール、ゴールなどを説明
③伊予市の魅力や美味しいものを互いに聞き、書き出し、班毎に発表

所感：初回のワークショップということもあり参加者からの感想（26枚の付箋より：1人1枚以上記入）の内容の半数以上が、懐疑的・意欲的でない傾向にあった。ただ、伊予市の魅力を書き出してもらったところ、合計約160枚分（被りあり：平均6枚/1人記入）の要素が出てきたため、参加者一人一人が何かしらの形で伊予市に対して愛情を持っていること、自分の関わる地域に対して魅力や価値を自分なりに見出していると考えられる。

〈第2回ワークショップ〉

■日付：令和3年11月19日(金)18:00～20:00
■場所：双海地域事務所
■テーマ：「自分のことを伝えよう！～伝える 聴き合う 深める 共感し合う～」
■内容：参加者の属性、持っている要素を明らかにする
参加者同士でつながりを深め、各地区の観光・資源の洗い出し。自分が伊予市でどのような思いで事業・活動をしているのかを可視化し、参加者同士で知り合い、深める。
①ワークシート事前記入、当日班に別れて1対1でインタビューし合う
②班全体で1人に対して他のメンバーからさらにインタビュー
③班発表 インタビューを元にして完成した「人となりシート」をもとにメンバーの紹介

■所感：参加者からの感想（21枚の付箋より）のほぼ8割以上が、「参加者のことを知り合えてよかった」、「楽しかった」というコメントが多く見られた。「楽しくはあるがこ

の後どう展開していくのか不安」という参加者も一部いる状況。人となりシートに記載されていた要素は、合計約 200 枚、1 人あたり約 9 枚以上（質問の付箋除く）。ニックネームで呼び合うことで性別・世代・立場が無くなり本音に話せるようになること、一対一で聴く、話すことで参加者同士とこの場に対する心理的安全性が前回よりも高まったように感じる。

〈第3回ワークショップ〉

■日付：令和3年12月20日(金)18:00～20:00

■場所：中山地域事務所

■テーマ：「自分の事業を通して“やりたいこと(夢、野望)”、“やろうとしていること(準備中)”、“やっていること(現在進行形)”、“その他、やめようとしていること”は？」

■内容：自分の事業を通して考え、取り組む中での問題点や伊予市の可能性を一覧化する

①全体の流れと目的の振り返り

②参加したきっかけと期待していることを一人一人班の中で共有

③自分の事業を通して、“やりたいこと(夢、野望)”、“やろうとしていること(準備中)”、“やっていること(現在進行形)”、“その他、やめようとしていること”を共有しあう

■所感：参加者の感想（18枚の付箋）で、「希望、夢、野望、具体的な方向性、輪郭がはっきり、つなぐ（キーワード一部抜粋）」といった前向きな姿勢の感想が多く見られた。自分の事業に関し合計で、（伊予市で）やりたいこと：65枚、やろうとしていること：32枚、やっていること：39枚、やめよう：11枚出ている。やりたいことが他の付箋よりも約2倍の数となり、内側で自分の夢や願望があることが窺える。この第3回のワークショップをきっかけに、参加者自身が進むべき道が分かってきたような人が多く、一回目と比べると参加者の中で自発的な気持ちの芽生えが見受けられた。今回出てきた意見を分解し、分析することで新しい法人に求められる役割や機能のヒントが得られそうである。

〈第4回ワークショップ〉

■日付：令和4年3月25日(金)18:00～20:30

■場所：伊予市役所 大会議室 4階

■テーマ：これまでを経て、「自分にできること・応援したいこと・シェアできること・こうだったらいいな」をつなげてみる

■内容：法人設立後、参加者自身が協力・参加したくなるようなビジョン作り

これまでのワークショップで出た成果物を元に、上記テーマで組み合わせゲームを行った。

①振り返り、新しい法人からこれまでのワークショップを通して参加者へ一言

②キーワードが記載されたカードを組み合わせ、ワークショップを班ごとで実施

- ③自分にできそう、応援したい、シェアしたいと思うもの、他の班に付箋でコメント
- ⑤発表、縮めの挨拶、交流時間

■所感：前回の開催から2ヶ月経過しているのにも関わらず、ワークショップに取り組む姿勢と熱量の上がり方が早かった。関係性作りを入念に行っていたためだと考えられる。今回、交流時間（放課後タイム）を設けていたため、感想を書き忘れて帰る参加者が多く記録として残すことができなかった。しかしながら、これまでと今回の成果物（方眼紙、付箋）と見比べると、色使い、字の大きさ、書き方に勢いがあることから参加者からの意欲が伝わってくる。今回の成果物については、「新しい法人**で**」、「伊予市**が**」といったような主語ではなく、「自分達**が**」できそうなことというような表現が見られ、自分ごと化ができているようだ。以下、業務の総括に続く。

業務の総括

全4回のワークショップで新しい法人のヒントを探るというのは、参加者同士での関係性構築ができていない状態からのスタートという面から見て、段階的にも回数的にもかなり厳しいように企画当初は考えていた。しかしながら、今回事務局（市、協会他）を含む参加者全員が自分ごととして捉えていったことで、ワークショップの場が大きく動き、予想だにしない熱量を生み出したように思える。

開催する中で見えてきた、双海、伊予、中山3地区がそれぞれ独立したかのように見えても、内心ではもっと繋がりを求めているということ。この4回を通して、その壁が少しずつ取り崩されたのではないだろうか。これにより、それぞれの立場・事業で抱えている願望や問題が、より伊予市として全体化され、新しい法人の設立に向けた事業検討へのヒントに繋がったように思える。

こちらがコンセプトとして事前に提案していた、参加者が観光物産協会・伊予市を知り、潜在的な観光物資を掘り起こす、参加者自身で価値を見出すことに関しては、概ね達成したように思える。今回の開催目的については、ワークショップを通して多くの人から意見やアイデアを出してもらい、法人設立及び事業計画作成に活用することであったがそれ以上の成果として、参加者一人一人との協力関係構築も今回のワークショップで醸成された。

これまでの業務を通して、裏で支えてくれた事務局の方々がいなければここまで念入りなワークショップは開催できなかっただろう。参加者への細やかな配慮や欠席者へのフォロー、会場の準備、何時間にも渡る打ち合わせ。この業務全体を通して、事務局と参加者に支えられた。まだまだ課題は多くあるが、今回の種まきから芽吹いた草木を数年かけて育て、自分達で自立できるよう、サポート役として伊予市に関わっていきたい。

以上